

# 対談 みやげ業とJTB、新たな連携を語る



JTB常務・国内事業本部長 今井 敏行 氏



JTB旅行スタンプ加盟店連盟会長 河合 徹 氏

## 支部活性化、会員増強が急務

## JTBとともに議論を

【司会 日本経済新聞】今年上半期の国内旅行市場を振り返ると、海外が3年連続前年割れをしながら、国内がそれをカバーしてきたのが昨年。ところが今年も海外の不調は変わらないが、4月発生した熊本地震の影響や、不安定な消費者の財布の紐が固くなっており、国内の個人旅行が前年割れの状況。団体は堅調に推移している。

北陸新幹線の開業や、当社独自のUSJ(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)に属していない状況だ。東京、大阪を中心に大都市圏のエリアパークインによる京阪神地区の拡大など大きなイベントがあったのだが、今年から枯渇してきた。そのため、年はその反動が出ている。昨年はその反動が1年、2年、3年と続く。1年、2年、3年と続く。1年、2年、3年と続く。

「JTBと契約するみやげ店の組織、JTB旅行スタンプ加盟店連盟は9月26日、北海道函館市で通常総会を開き、新会長に河合徹会長代行、副会長(岐阜県・美濃観光物産館社長)を選んだ。連盟は今後、新体制のもと、JTBと連携し全国約600店の加盟店への送客拡大、活性化に努める方針だ。新会長の河合氏は、JTBの販売部門の責任者、今井敏行常務(国内事業本部長)に「連盟と会社の新しい連携を語る」をテーマに話していただいた。

(東京・天竺洲のJTB本社で)

「JTBの日本への九州キャンペーンが10月からスタートしているが、団体向けは「Aユニット」のキャンペーン商品で連盟の皆さまの協力をいただき、さまざまな新しい企画を打ち出している。お客さまの個人化に対応し、宿泊商品に連盟のおみやげを入れてもらえる500円券を付けるなどのトライアル企画も行っている。

「JTBの日本への九州キャンペーンが10月からスタートしているが、団体向けは「Aユニット」のキャンペーン商品で連盟の皆さまの協力をいただき、さまざまな新しい企画を打ち出している。お客さまの個人化に対応し、宿泊商品に連盟のおみやげを入れてもらえる500円券を付けるなどのトライアル企画も行っている。

## 魅力的なコンテンツ作りへ

## 連盟会員の協力不可欠

「本格的に拡充したい」と思っている。それは連盟の皆さまのさらなる協力が必要だ。

「本格的に拡充したい」と思っている。それは連盟の皆さまのさらなる協力が必要だ。

「JTBがさまざまな商品を作っていることを、会員があまり知らない。会社がこんな商品を作っている。自分たちも参加できるのだ」ということを会員さんが分かるようにしたい。

「JTBがさまざまな商品を作っていることを、会員があまり知らない。会社がこんな商品を作っている。自分たちも参加できるのだ」ということを会員さんが分かるようにしたい。



握手する河合(右)、今井両氏

日本三景 天橋立 松井物産 代表取締役社長 松井 道昭

TEL 0772-20028

大滝鍾乳洞

美濃観光物産館 Japan Tax Free Shop

代表取締役 河合 徹

海鮮焼き食べ放題 まるばま

the Fish

年中無休 営業 9時～18時

レストラン 源

フードコート

http://hirazumi2011.jp

HOTEL TAISETSU GROUP ホテル大雪グループ

大雪山国立公園 層雲峡温泉

ホテル大雪

代表取締役社長 西野目 信雄

【本社】北海道旭川市6条通14丁目9号



今年度事業、新役員を決めた総会



河合会長(左)が退任した小野寺前会長に花束を贈る



高橋 JTB 社長が来賓あいさつ

河合会長は組織力の強化を重点項目に... 新会長に河合徹副会長・会長代... 組織強化、支部活性化に注力

JTB旅行スタンプ会 新会長に河合氏(美濃関) 組織強化、支部活性化に注力

「地域活性化の戦力に」 河合新会長あいさつ要旨... 本おみやげアカデミーグループ... 地域活性化の戦力に



和やかに懇談する両氏

「5面から続く」 河合 昔はわれわれ業界... 商環境の変化に対応を 事務局移管はチャンス

JTB 感動のそばに、いつも。 JTB旅行スタンプ加盟店連盟... 連盟のシンクタンク みやげみらい委員会... オンリーワン運動 日本おみやげアカデミーグランプリ... 人材づくり みやげ塾

# みやげ業界の地位向上、プライド回復へ

## JTB旅行スタンプ 3大事業

JTB旅行スタンプ加盟店連盟は「日本おみやげアカデミーグランプリ」「みやげ塾」「みやげみらい委員会」を連盟の3大事業として推進している。みやげ業界の「物づくり」「人づくり」「未来づくり」を担うもので、みやげ業界の活性化にとまらず、業界で働く人々の地位向上、プライド回復を目指している。

### 日本おみやげアカデミーグランプリ

日本おみやげアカデミーグランプリは「どこへ行っても同じみやげばかり」という消費者の批判に応えるとともに、不況や団体旅行の減少でみやげが売れなくなった現状を踏まえ、「オリジナリティあふれるオンライン商品を開発する」という人々の期待に応え、店の売り上げ拡大、みやげ業界の活性化にもつなげる。また、映画界のアカデミー賞のような華々しい舞台を作るのが業界人の地位向上やプライドの回復、モチベーションのアップにつながる。また、JTB旅行スタンプ加盟店連盟内に設置された「アカデミー賞委員会」(発展的解消)が発案。2000年に第1回が開催され、以来、第6回(2010年)まで隔年、第7回(2013年)以降は毎年の事業として実施している。

## 消費者の期待に答える 受賞商品の販売促進も

主催は連盟内に事務局を置く日本おみやげアカデミーグランプリ実行委員会。運営は同運営委員会が担っている。2004

・土産品部門 など7つに細分化し、それぞれで優秀な商品を「金賞」として、外国人観光客が増えている状況を受け、第3回から「インバウンド賞」(現在は外国からのお客様に買っていただきたい賞)も設定している。



第9回の準グランプリ



カテゴリー別金賞



地域別人気投票1位



試食・試飲を行った審査選考委員らによる最終審査



委員らが議論し、各賞を最終決定した



「みやげみらい委員会」連盟のシンクタンク「みやげ業界の未来」の推進

前回(第9回)の日本おみやげアカデミーグランプリの審査発表・表彰式

## 業界の人材育成

22回の開講で  
438人が受講

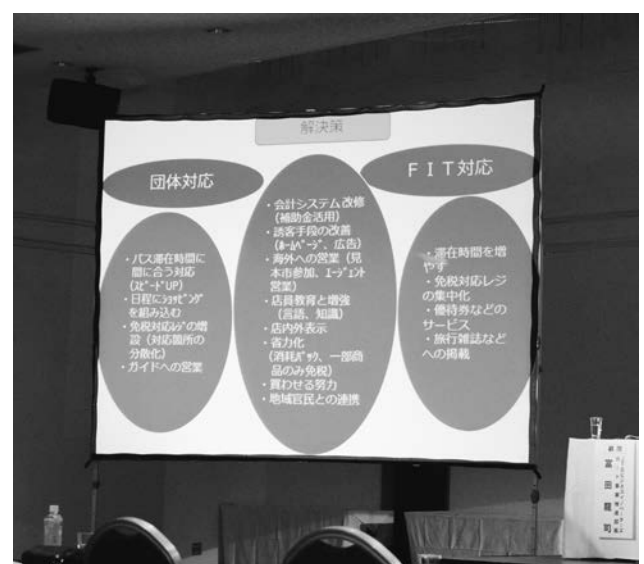
みやげ塾は、「業界の将来は優秀な人材の量で決まる」という連盟の調査研究委員会(当時)

### みやげ塾

の管甲を受けて、みやげ塾の若手経営者、幹部社員らの育成講座として1999年に発足し



今年2月の第22回みやげ塾。メインテーマは「みやげ業は地域文化の伝産産業である」



先の通常総会で松岡新委員長が委員会の活動方針をプレゼンテーションした

## 業界発展へ提言

個人・外客対応や  
組織のあり方研究

### みやげみらい委員会

みやげみらい委員会は、連盟とみやげ業界の発展に向けた提言を担う連盟本部の諮問機関として2007年に「交流文化事業」「IT電子商取引」の2つをテーマに議論してきたが、現在は事業や組織など、幅広い観点から連盟と業界の「あ」の新たな部会を設置し、防犯の消費動向の研究や、会員に向けた免税店登録推進の啓蒙などを進める方針だ。

た。現在、年1回のペースで、JTBの研修施設「フォレスト」(東京都多摩市)を会場に、全講義をもとに参加者同士が「みやげの連盟支部から推薦のあった」約20〜30人を対象に、2泊3日の日程で行っている。「みやげ業は地域文化の伝産産業である」



第1回(非食品部門) 北の聖少女 すずらん (北海道 北の森カネン)



第3回(非食品部門) きりたんぼ体験日記 (秋田県・田園市場 秋田美人)



第4回(非食品部門) 苺子焼酎サバー (栃木県・苺子焼酎共販センター)



第7回(非食品部門) さめき紅白巻物うどん (香川県・ナカノヤ琴平)



第2回(非食品部門) やくしまるの癒し箱 (鹿児島県・屋久島観光センター)



第5回(非食品部門) 秋化粧(心あわせ) 秋焼きのサラタール (山口県・観光会館安富屋)



第6回(非食品部門) キャンドルスタンド ウサギ (若手県・岩鉄銘菓館)



第8回(非食品部門) 卓上型百年のしずく(陶製浄水器) (滋賀県・信楽陶器村 新築陶器店)



第1回(食品部門) 讃岐養物どん (香川県・ナカノヤ)



第2回(食品部門) 境産産まのロースステーキ (鳥取県・大瀬市場なかも)



第3回(食品部門) 第5回食品部門は該当商品なし (第7回からグランプリは1点に (第9回はグランプリ選定商品が販売停止のため 準グランプリが最高位)



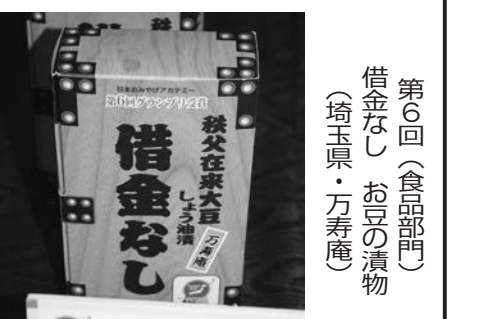
第4回(食品部門) 第6回(食品部門) 借金なし お豆の漬物 (埼玉県・万寿庵)



日本おみやげアカデミー  
グランプリ

## 日本おみやげアカデミーグランプリ 歴代受賞商品

第5回食品部門は該当商品なし (第7回からグランプリは1点に (第9回はグランプリ選定商品が販売停止のため 準グランプリが最高位)



第6回(食品部門) 借金なし お豆の漬物 (埼玉県・万寿庵)